

特集 / 子育てへの理解を深める

子のかわいらしさ 肌で感じて

市は、さまざまな施策を通して、楽しく子育てができるまちづくりを進めています。

そうした中、新たな取り組みとして、大垣桜高校生活文化科の生徒と乳幼児親子がふれあう体験講座を開催しました。

今回の特集では、講座の様をお伝えするほか、親子で絆を深める「水都っ子ウィーク」期間中に行われた催しなどについて紹介します。

キッズピアで子育て体験 多くを学ぶ

高校生と乳幼児のふれあい体験講座「高校生のタッチベイビーinキッズピア」が7月13日から20日にかけて、キッズピアおおがき子育て支援センターで行われました。同講座は、高校生が乳幼児とふれあい、親との交流を通して子育てへの関心を高めることが目的。衣・食・住、保育などに関する知識や技術を学ぶ大垣桜高校生活文化科2年生の生徒78人が、乳幼児親子とふれあい、さまざまなことを学びました。

事前学習で流れを確認

7月9日に、校内で事前学習会を開催しました=写真=。キッズピアおおがき子育て支援センター・交流サロンを運営する「NPO法人くすくす」の安田典子理事長が講座当日の流れや注意点などを説明。生徒たちは熱心に話を聞き、乳幼児と接する心の準備を整えました。



“戸惑い”から、少しずつ“楽しさ”へ

7月19日には、生徒14人と生後6か月から2歳までの親子7組が対面。生徒たちは自己紹介をした後、事前に覚えてきた手遊び歌を親子と一緒に歌うなどして距離を縮めました。

その後、高校生だけで1時間子どもを預かる体験を始めるため、母親が部屋から出るとたくさん子どもたちが一斉に泣き出しました。生徒たちは戸惑った様子でしたが、互いに助け合い、工夫して子どもをあやしていました=写真=。



時間が経つにつれて、泣いていた子どもも笑顔を見せるように。生徒たちはうれしそうなお顔を浮かべながら子どもたちとのふれあいを楽しんでいました。



乳幼児とふれあう大垣桜高校の生徒たち

将来、子育てするイメージを膨らませて

生徒たちは、子どもを預かる体験が終わると、母親自らが経験してきた子育ての体験談を聞きました。出産・育児の大変さとそれに勝る喜びの声を耳にして子育てすることの素晴らしさを学び、実際に自分が将来、子育てをするイメージを膨らませていました。



別れ際にタッチ！また遊ぼうね

また リアルな子育て現場の雰囲気を感じ、自分の進路を考えるきっかけにしていました。

今回の交流は、これからも…

子どもたちを笑顔にしようと、一生懸命になる高校生。生徒たちに大切な赤ちゃんを預け、自らの子育て体験について丁寧にやさしく語ってくれた母親――。

今回の体験で生徒たちは、乳幼児のかわいらしさや育児の大変さを肌で感じることができました。

また、親の温かさを知り、地域で交流できることへのありがたみ、地域で助け合っていくことの大切さについて考えを深めていました。

親のすごさを改めて実感

普段はできない貴重な体験で、大変勉強になりました。初対面の子どもを預かるということもあって、すごく責任を感じました。乳幼児は言葉で話すことが未熟なため、何をしたいのか、何をしてほしいのかわかりませんでした。声に出してくれる言葉と動作で理解しようと頑張りました。そんな子どもたちの気持ちを理解し、意思疎通をとれる親を見て、改めてすごいと思いました。



大垣桜高校生活文化科 田中香帆さん(2年)

自分も将来、子育てをしたいと思える体験になりました。

交流を楽しんで、子育てしたい

高校生の皆さんに会ってみて、すごくしっかりしていたので、安心して子どもを任せられると思いました。

平日は、子どもから目を離すことができないので良い気分転換になりました。また、子どもも高校生とふれあうような機会がないので、いい刺激になったかと思えます。

キッズピアには、月に2回くらい来ています。今回のような取り組みを含めて地域の方たちとふれあうような機会を提供して下さることに感謝しています。これからも交流を楽しみながら、楽しく子育てしていきたいです。



桐山絢香さん
そうた
空大くん(1歳)



体験を通して